

タベリ・ミリ等の松本地方での状況

— 中信地方方言の優しい命令形と勧誘形 —

上條 厚

キーワード： 優しい命令形、ヤによる勧誘形、言う、言わない

要旨

長野県中信地方の方言で、タベリ・ミリ等の形は優しい命令を表し（優しい命令形とする）、タベリヤ・ミリヤ等は勧誘を表す（ヤによる勧誘形とする）。共通語形と共に用いられている。若年層に対する調査の結果によると、松本地方では優しい命令形・ヤによる勧誘形のどちらも広く行われている。男女差はないと言ってよい。言うか聞くのみかの違いは、個人差と思われる。両形の内、優しい命令形のみを使用する人は、1つの地域に集中している傾向がある。優しい命令形の使用の方が多いと言える地域もある。語ごとの使用状況は語によって違う。ki・kuri<来い>と siri・suri<しろ>は、言うか言わないかについて、相当ははっきりした地域差が見られる。

1. はじめに

長野県中信地方を始めとした地域で行われる方言形の中に、優しい命令形とその形に基づく勧誘の言い方がある。例えば「読む」「食べる」「見る」の優しい命令は、ヨミ・タベリ・ミリであり、勧誘はヨミヤ・タベリヤ・ミリヤとなる。共通語の命令形・勧誘形であるヨメ・タベロ・ミロ、ヨモー・タベヨー・ミヨーとあわせて行われている。これは中信地方のみならず、それに隣接する地域を含めた広い範囲で行われている。また長野県中信地方とはたぶん関係なしに、他の地域でも同様のものが行われている。そのことは筆者の調査による資料でも確認できるが、本稿では松本市を中心とした地域についてのみ述べる。^(注)

馬瀬(1992)は長野県全般の方言を詳細に記述しているが、中信地方の方言について述べる中で次のように書いている。「勧誘としては、動詞命令形に-ヤを接続させた、イケヤ(行こうよ)・ミロヤ(見ようよ)などの表現もある。ただし、これは表131(略)で見るように高年層の使用になり、中年層では女性を中心に、イケヤ・ミーヤが現れる。さらに若年層ではミーヤはミリヤとなる。1段型動詞ミルをラ行4段型に活用させたのである。イケヤ・ミリヤは若年層では男女の別なく用いられる。」このように述べ、大町市・小谷村・松本市での、イケヤ・ミリヤの使用を示している。なお同書に言う若年層は、1961年～1967年生まれの人たちである。同書には勧誘のみ言及されているが、命令形としてのイ

キ・ミリも使われている。

優しい命令形であるタベリは今から30年以上前、1960年代も、松本市では行われており、筆者も耳にした。同様の言い方で、1960年代に筆者が聞いた記憶があるは、もう1つ、「道路を渡れ」という意味で使われたワタリである。筆者の記憶にあるのはこの2つだけであるが、他の動詞でもおそらく使われていたであろう。さてこの言い方、松本市に隣接する、筆者の出身地である東筑摩郡朝日村では、1960年代は行われていなかった。筆者は松本市内に通学するようになってから、聞いたものである。それが現在では朝日村でも若年層の間で行われている。この使用状況について、以下に見ることにする。

2. この地の動詞の活用

始めに朝日村の若年層の動詞活用表の一例を示す。(個人差も考えられるので、あくまで一例と見なす) 言語資料提供者は朝日村古見出身、1974年生、女性である。子音型動詞は「読む」「買う」で代表させておく。

表 1

語		語幹	1	2	3	4	5	6	7	8	9
子音型	読む	'jo(m)	a	i	u	e	ϕ	e	i	o	(N)-
	買う	ka(')	wa	i	u	e	ϕ	e	i	o	(Q)
母音型	食べる	tabe	ϕ	ϕ	ru	re	r	ro	ri	ϕ-	ϕ
	見る	mi	ϕ	ϕ	ru	re	r	ro	ri	ϕ-	ϕ
	来る	k(u)	(o)	(i)	ru	re (o)re	r (o)r	(o)'i	ri (i)	(o)-	(i)
	する	s(u)	(i) (a)*	(i)	ru	re	r	(i)ro	ri	(i)-	(i)
後続形式			na'i nee	中止 masu	終止 koto	ba	ja ^E	命令終止①	命令終止② 'ja	^E -'jo ^E	te -de ta -da

※ /saseru/ /sareru/の場合。

()は、同じ記号同士ががちあうときに交代する。がちあわないときはそのまま続ける。

-のあるものは -のあるものと、ないものはないものと接続する。

方言形の後続形式はいろいろあるが省略して挙げる。表の4・5はともに仮定形であり、両方用いられる。(なお上記資料提供者は言わないようだが、「来る」の5には ko'ja^E という形を言う人もある) 6は共通語と同形の普通の命令形である。7は後続形式なしで優しい命令形(以下この命令形を「優しい命令形」と呼ぶことにする)となり 'jomi・ka'i・taberi・miri・suri のようになる。それに後続形式 'ja が付いた 'jomi'ja・taberi'ja等が勧誘形(以下この勧誘形を「ヤによる勧誘形」と呼ぶことにする)となる。それは8の共

通語と同形の勧誘形とあわせて用いられている。

なおこの地方のももとの勧誘表現は、8の共通語と同形ものはなかった。上記、馬瀬(1992)に述べられている、共通語と同型の命令形にヤを付けたイケヤ・ミロヤ等が、ももとの勧誘形である。

「来る」「する」の優しい命令形は、上記資料提供者では「来る」については kuri・ki、「する」については suri である。上記資料提供者は言わないが、松本市を中心とした地方で他に、「する」について siri・si の形がある。

この命令形は複合動詞においても同様であるが、縮約化されることも多い。次のようになる。

持って行く	moqte'iki/moqteki
買っておく	kaqte'oki/kaqtoki
飲んじゃう	nonzja'i
読んでいる	'jonde'iri/'jonderi
食べてみる	tabetemiri
持って来る	moqtekuri

3. 使用状況調査の実施

筆者はこの優しい命令形およびヤによる勧誘形の、各地における使用状況について、若年層を中心に調査を行った。筆者の本学教育学部における授業を受けていた学生を基盤として調査したものであるが、調査対象とすべき各市町村で2人以上の回答者が得られない場合には、学生以外にも協力を願った。教育学部は女子学生が多いので、回答者は女性が多くなっている。学生は全国各地から来ているので、資料もそれに応じて得られたが、本稿では松本市を中心とした地域のみについて述べる。高年齢層についても調査を行ってあるが、本稿では若年層のみを扱う。

以下で対象とする地域は、まず旧東筑摩郡地域の松本市以南（松本市・塩尻市・波田町・山形村・朝日村）である。その北西辺の南安曇郡地域について、最後に若干付け足す。

調査は1995年から1997年にかけて行った。1997年4月1日現在で18歳～30歳の人たちを、以下で分析する対象とする。居住歴に関して、対象として適当とするのは、13歳前後～18歳前後を同一の地域で過ごした人とする。

調査票は次のように作成した。まず「優しい命令(または勧誘)の言い方 taberi('ja)・miri('ja)などを言うか」と問い、・言う・(自分の故郷で)周囲の人が言うのを聞くことがある・言わないし(自分の故郷では)聞くこともない の、いずれであるかを回答してもらおう。次に・言う の場合には下記に基づいて、それぞれを言うか言わないか、回答してもらおう。

(読む→)	'jomi	'jomi'ja
(買う→)	ka'i	ka'i'ja
(食べる→)	taberi	taberi'ja
(見る→)	miri	miri'ja
(遊んでいる→)	'asonde'iri	'asonde'iri'ja
	'asonderi	'asonderi'ja
(来る→)	ki	ki'ja
	kuri	kuri'ja
(する→)	si	si'ja
	siri	siri'ja
	suri	suri'ja

筆者の授業を受けていた学生については、筆者が説明した後、各自回答して提出してもらった。それ以外の場合には筆者が面接調査をして記入した。

4. 松本地方での調査の結果と考察

4.1 結果の集計(1)

旧東筑摩郡地域の松本市以南(松本市・塩尻市・波田町・山形村・朝日村)で得られた資料は、次のとおりである。市町村別に分け、通し番号をつけ、町名・性別を示す。

・言う と回答した人

<松本市> 1岡田町(女) 2原(女) 3旭(男) 4元町(女) 5女鳥羽(女) 6清水(女) 7県(女) 8沢村(女) 9蟻ヶ崎(女) 10宮淵(女) 11渚(女) 12渚(女) 13井川城(女) 14鎌田(女) 15鎌田(女) 16征矢野(女) 17笹部(男) 18神田(女) 19神田(男) 20神田(女) 21神田(女) 22神田(女) 23里山辺(男) 24里山辺(女) 25入山辺(女) 26入山辺(男) 27島内(女) 28和田(女) 29笹賀(女) 30寿白瀬淵(男) 31寿豊丘(女) 32松原(女) 33中山台(女)

<塩尻市> 34広丘吉田(男) 35広丘堅石(女) 36広丘高出(男) 37大門(女) 38塩尻町(女) 39塩尻町(男) 40柿沢(女) 41上西条(女) 42宗賀(男)

<波田町(番地を100番台で区切って示す)>

43波田町200番台(女) 44波田町8100番台(女) 45波田町5200番台(女) 46波田町6700番台(女)

<山形村> 47上大池(女) 48清水高原(女)

<朝日村> 49古見(男) 50西洗馬(女) (前記、朝日村の動詞活用表作成に協力いただいた言語資料提供者は、調査票に基づいた調査をしてないので、ここには入っていない)

・(自分の故郷で) 周囲の人が言うのを聞くことがある と回答した人

<松本市> ①大村(女) ②元町(女) ③蟻ヶ崎台(女) ④渚(女) ⑤笹賀(女) ⑥寿豊丘(女) ⑦寿台(女) ⑧寿小赤(男)

<塩尻市> ⑨広丘吉田(女) ⑩長畝(男) ⑪柿沢(男) ⑫宗賀(女)

・言わないし(自分の故郷では) 聞くこともない と回答した人

<松本市> I横田(女)

以上を市町村別・男女別に集計すると、次のごとくである。・言う の回答を「言う」、(自分の故郷で)周囲の人が言うのを聞くことがある の回答を「聞く」、言わないし(自分の故郷では)聞くこともない の回答を「言わない・聞かない」とする。(以下同じ)

表 2

	松本市			塩尻市			波田町			山形村			朝日村			全 体		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
言　　う	6	27	33	4	5	9	0	4	4	0	2	2	1	1	2	11	39	50
聞　　く	1	7	8	2	2	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	9	12
言わない・聞かない	0	7	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
計	7	35	42	6	7	13	0	4	4	0	2	2	1	1	2	14	49	63

人口の多寡は本学教育学部に入学する学生数にも反映しており、その結果、本調査の回答数も松本市が圧倒的に多くなっている。塩尻市がそれに次いでいる。

「言わない・聞かない」の回答が松本市に1つだけある。松本市と塩尻市には「聞く」の回答がある。波田町・山形村・朝日村は回答数が少ないが、「言う」のみである。

次に、回答数の多い松本市と塩尻市、および全体の数を、男・女・計ごとに百分率にして示すと次のようになる。

表 3

	松 本 市			塩 尻 市			全 体		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
言　　う	85.7	77.1	78.6	66.7	71.4	69.2	78.6	79.6	79.4
聞　　く	14.3	20.0	19.0	33.3	28.6	30.8	21.4	18.4	19.0
言わない・聞かない	0.0	2.9	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	1.6
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

全体のほぼ5分の4が「言う」、5分の1が「聞く」となっているが、塩尻市は「聞く」の比率が高い。

4.2 男女差はあるか

男女の差があるかどうかについて考える。回答者に女性が多い理由は前述した。男女とも多数回答されているのは松本市と塩尻市であるが、表3により、男性・女性それぞれについて「言う」と「聞く」の比率を見してみる。

松本市と塩尻市とでは比率に大きな違いがあるが、市ごとに、それぞれの市だけで見た場合、男女別の比率はそれほど大きな違いでないと言ってよい。また全体について見た場合、男女別の比率は相当近い数字となっている。したがって男女差はほとんどないものと考えてよいであろう。以下、男女の差を考えずに論を進める。

4.3 「聞く」を考える

「聞く」の回答について考える。「聞く」は松本市と塩尻市のみにある。市内の同じ町内に「言う」と「聞く」が混在する場合がある。それらを「言う」―「聞く」の順で挙げると次のとおりである。4元町(女)―②元町(女)、11渚(女)・12渚(女)―④渚(女)、29笹賀(女)―⑤笹賀(女)、31寿豊丘(女)―⑥寿豊丘(女)、34広丘吉田(男)―⑨広丘吉田(女)、40柿沢(女)―⑩柿沢(男)、42宗賀(男)―⑫宗賀(女) (ただし宗賀は広いが)。

「聞く」で同じ町内に「言う」がないものも、隣接する町に「言う」がある。(調査の偶然の結果であろうが、「言う」と「聞く」が町内に混在しない場合の「聞く」については、全て隣町に「言う」の回答が得られている) それらは次のとおりである。4元町(女)―①大村(女)、9蟻ヶ崎(女)―③蟻ヶ崎台(女)、32松原(女)―⑦寿台(女)、31寿豊丘(女)―⑧寿小赤(男) (ただし隣接と言っても、面積が相当広いが)、38塩尻町(女)・39塩尻町(男)―⑩長畝(男)。

このように見ると、(面積が相当広い場合のものもあるが)「聞く」の回答の人の近くに「言う」の回答の人がいるわけである。こうしたことから「言う」であるか「聞く」であるかは、個人差と見るべきである。

「言わない・聞かない」は1人のみで、I横田(女)である。隣接する町の、4元町(女)・6清水(女)は「言う」である。「言わない・聞かない」も個人差と見ておいてよいであろう。

以上、「聞く」「言わない・聞かない」の回答はあるものの、それは個人差と考えられることを述べた。なお個人差により言わない人もいるということは、調査を進める上で注意を要することである。

4.4 結果の集計(2)

以下においては、「言う」のみについて扱う。「言う」と回答したものは、調査票のそれぞれの語について言うか言わないかを答えている。それに関して検討する。それぞれの語についての言う・言わないの回答を、これまで述べてきた「言う」と区別するため、以下[言う][言わない]とする。それを1～50の全員について表にする。[言う]は○、[言わ

ない] は×で表す。

表 4

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
'jomi	-ja	O×	OO	OO	OO	OO	O×	O×	OO	O×	OO	OO	O×	O×	OO	O×	O×	O×	O×	OO	O×
ka'i	-ja	O×	OO	XO	OO	XO	OO	O×	OO	O×	OO	OO	O×	O×	OO	O×	O×	O×	O×	OO	O×
taberi	-ja	O×	OO	OO	OO	OO	OO	OO	OO	OO	OO	OO	O×	O×	OO	O×	O×	O×	O×	OO	O×
miri	-ja	×	OO	XO	XO	OO	OO	×	XO	XO	XO	×	O×	O×	OO	O×	O×	O×	×	OO	O×
'asonde'iri	-ja	×	O×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
'asonderi	-ja	O×	O×	OO	OO	×	O×	OO	OO	OO	OO	×	×	OO	O×	O×	O×	×	OO	O×	
ki	-ja	×	O×	×	O×	×	O×	×	×	O×	×	×	O×	O×	O×	×	O×	O×	O×	×	×
kuri	-ja	×	O×	XO	O×	OO	×	×	XO	×	O×	×	×	×	×	×	×	×	×	OO	×
si	-ja	×	O×	×	×	×	×	×	O×	O×	×	×	O×	O×	O×	×	O×	O×	×	×	×
siri	-ja	×	OO	×	×	OO	OO	OO	OO	×	XO	×	×	×	×	O×	O×	×	×	XO	O×
suri	-ja	×	O×	OO	OO	×	×	×	×	×	OO	×	×	×	OO	×	×	×	×	XO	×

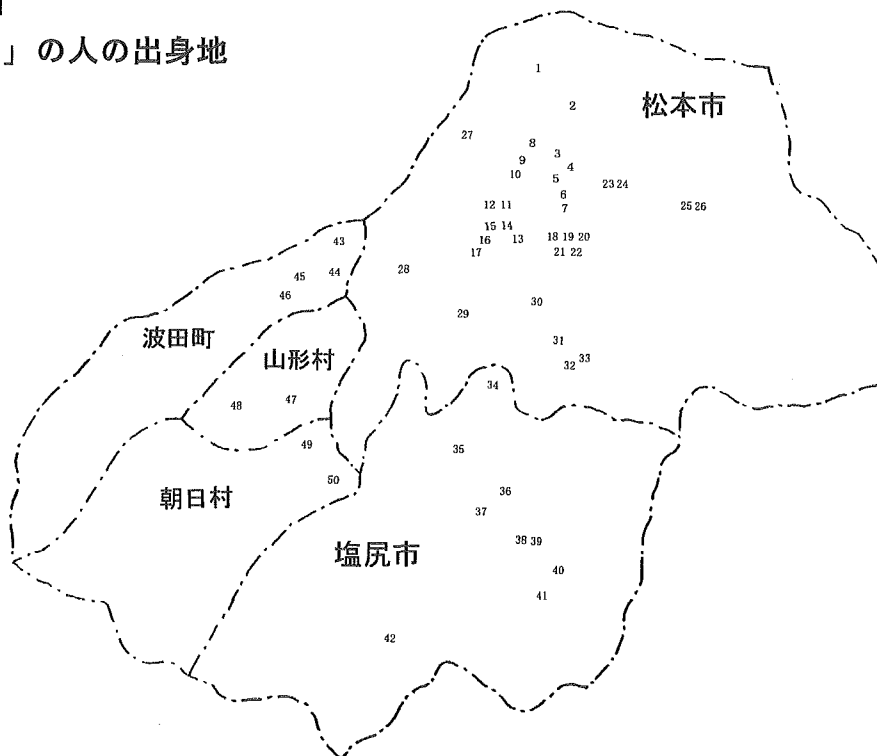
		21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	
'jomi	-ja	O×	OO	OO	O×	OO	XO	×	OO	O×	O×	OO	OO	OO	OO	OO	XO	OO	O×	XO	OO	
ka'i	-ja	O×	OO	OO	O×	OO	XO	O×	OO	OO	O×	OO	OO	OO	OO	OO	XO	OO	O×	XO	O×	
taberi	-ja	O×	OO	OO	O×	OO	OO	O×	OO	OO	OO	OO	OO	OO	OO	OO	XO	OO	O×	XO	OO	
miri	-ja	O×	XO	OO	O×	×	OO	×	OO	OO	O×	OO	OO	OO	OO	OO	×	OO	×	XO	XO	
'asonde'iri	-ja	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	OO	×	O×	
'asonderi	-ja	×	OO	OO	O×	OO	OO	O×	OO	OO	×	OO	OO	OO	OO	OO	XO	OO	×	OO	O×	
ki	-ja	×	×	O×	×	×	×	×	×	O×	×	×	×	×	×	OO	O×	×	OO	O×	×	
kuri	-ja	O×	×	OO	O×	OO	O×	×	OO	OO	OO	OO	OO	×	OO	×	×	×	×	×	XO	XO
si	-ja	×	×	O×	×	×	×	×	×	O×	×	×	×	×	×	OO	O×	×	×	×	×	
siri	-ja	×	×	OO	×	×	×	O×	×	OO	O×	×	OO	OO	XO	OO	×	OO	×	XO	×	
suri	-ja	O×	×	OO	O×	OO	OO	×	OO	OO	×	OO	OO	×	XO	×	XO	×	×	×	XO	XO

		41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
'jomi	-ja	OO	OO	OO	OO	XO	OO	O×	OO	OO	OO
ka'i	-ja	OO	OO	OO	OO	OO	OO	OO	OO	OO	OO
taberi	-ja	OO	OO	O×	OO	O×	O×	OO	OO	OO	OO
miri	-ja	XO	OO	XO	XO	OO	OO	O×	OO	XO	OO
'asonde'iri	-ja	OO	×	×	×	×	×	×	OO	×	×
'asonderi	-ja	OO	OO	OO	OO	O×	OO	OO	OO	OO	×
ki	-ja	O×	×	O×	×	O×	×	O×	O×	×	O×
kuri	-ja	XO	OO	O×	O×	O×	O×	O×	OO	XO	O×
si	-ja	O×	×	O×	×	×	×	O×	×	×	×
siri	-ja	OO	×	OO	OO	OO	×	OO	×	×	×
suri	-ja	×	OO	O×	O×	O×	O×	OO	OO	OO	O×

1～50の位置を示したのが地図1である。なお松本市の東部、塩尻市の東端部と西南部、波田町の中・西南部、山形村の西部、朝日村の中・西南部は、人口希薄地帯である。

地図1

「聞く」の人の出身地



4.5 優しい命令形・ヤによる勧誘形の使用の傾向

表4によって見る。個人個人について見ると、それぞれの語について、優しい命令形とヤによる勧誘形の両方を言う場合もあれば、一方のみを言う場合もある。

ヤによる勧誘形を全然言わないとする人が何人かいる。逆に優しい命令形を全然言わないとする人は、36広丘高出(男)、1人である。

4.5.1 優しい命令形のみ使用する人

ヤによる勧誘形を全然言わないのは次の人たちである。1岡田町(女)・12渚(女)・13井川城(女)・15鎌田(女)・16征矢野(女)・17笹部(男)・18神田(女)・20神田(女)・21神田(女)・24里山辺(女)・27島内(女)・38塩尻町(女)。この中で12・13・15・16・17は、地図1を見れば分かるように、1箇所に固まっている。18・20・21は同一町内の3人であるが、それは12～17の東側に近接している。13の井川城の東端から18～の神田の西端までの距離は1km弱である。ヤによる勧誘形を全然言わない人たちが、この方面に集中していると言えることができる。(ただしこれが調査の偶然の結果であるという可能性も否定はできない)この地域にも、ヤによる勧誘形を言う人がおり、それは、11渚(女)・14鎌田(女)・19神田(男)・22神田(女)である。こうした状況であるが、調査の結果は、この方面にヤによる勧誘形を全然言わない人が集中していること、しかもそれがこの地域の回答の多数を占めて

いることを示している。

1・24・27・38の人たちに関しては、これだけの調査では何とも言えない。

4.5.2 優しい命令形・ヤによる勧誘形の使用数の差

優しい命令形とヤによる勧誘形の両方を言う人たちについて、それぞれの回答を比べて見る。2原(女)は、優しい命令形を全部言うと言っている。ヤによる勧誘形は「言う」が5つのみで、少なくなっている。4元町(女)について見ると、優しい命令形を言わない語についてもヤによる勧誘形は言うということがあり、またその逆もある。そこで単純に、「言う」の数を合計すると、優しい命令形は7、ヤによる勧誘形は6となり、わずかに優しい命令形の方が多くなっている。同じような単純な計数を3旭(男)・5女鳥羽(女)についてしてみれば、2・4とは逆に優しい命令形が少なくなっている。

このような単純な計数で見えてみると、43以下(波田町・山形村・朝日村)においては、49古見(男)以外が全て、優しい命令形が多くなっていることが表から分かる。1つの傾向と言えるかもしれない。しかし他の地域においては、この使用数の差に関しての特別なことは見られないようである。

4.6 語ごとの使用状況

優しい命令形とヤによる勧誘形は、「ja」が付くか付かないかの違いである。どちらか一方でも言う場合には、それは方言形としての存在である。そこで以下においては両方をまとめ、いずれか一方でも言う場合には、その語形を言うとして扱うことにする。優しい命令形で代表させる。それぞれの語について見る。

4.6.1 'jomi・ka'i・taberi・miri

'jomi・ka'i・taberi・miri について見ると、それぞれを言わないとするのは次の人たちである。'jomi—27、ka'i—なし、taberi—なし、miri—1・7・18・25・27・36・38。'jomi は「言わない」が1人のみ、ka'i と taberi は全員が「言う」、miri については「言わない」が7人、全体の14%ということである。このように語によって使用の率が違う。

4.6.2 'asonde'iri・'asonderi

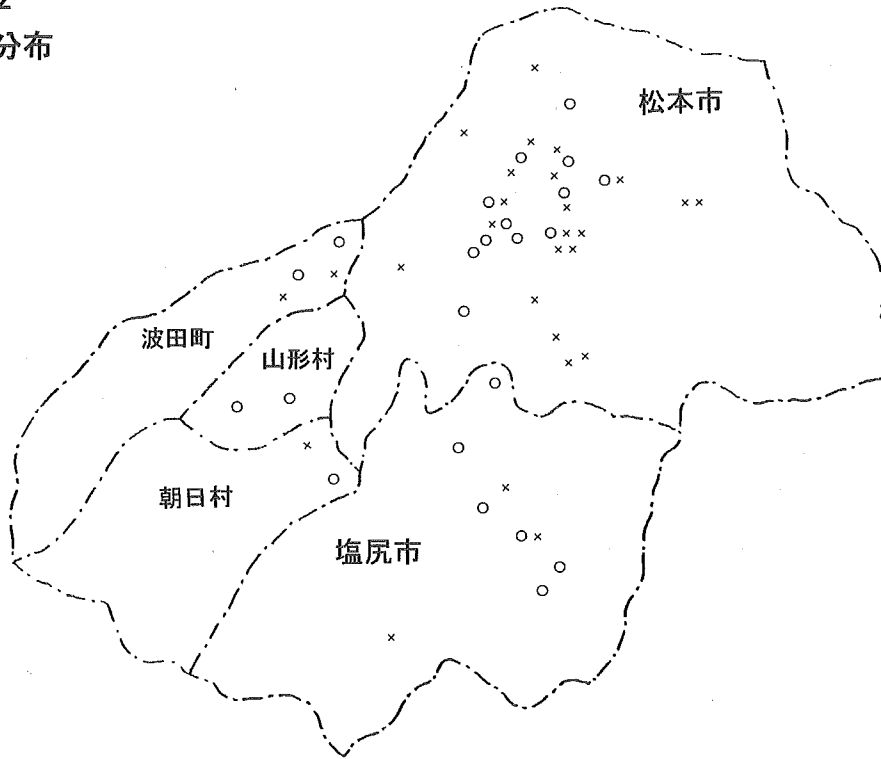
'asonde'iri は、「言う」が6人(12%)である。それは松本市では1人のみである。それに対し 'asonderi は42人(84%)が「言う」である。縮約された形の方が勢力が大きいと言える。

4.6.3 ki・kuri

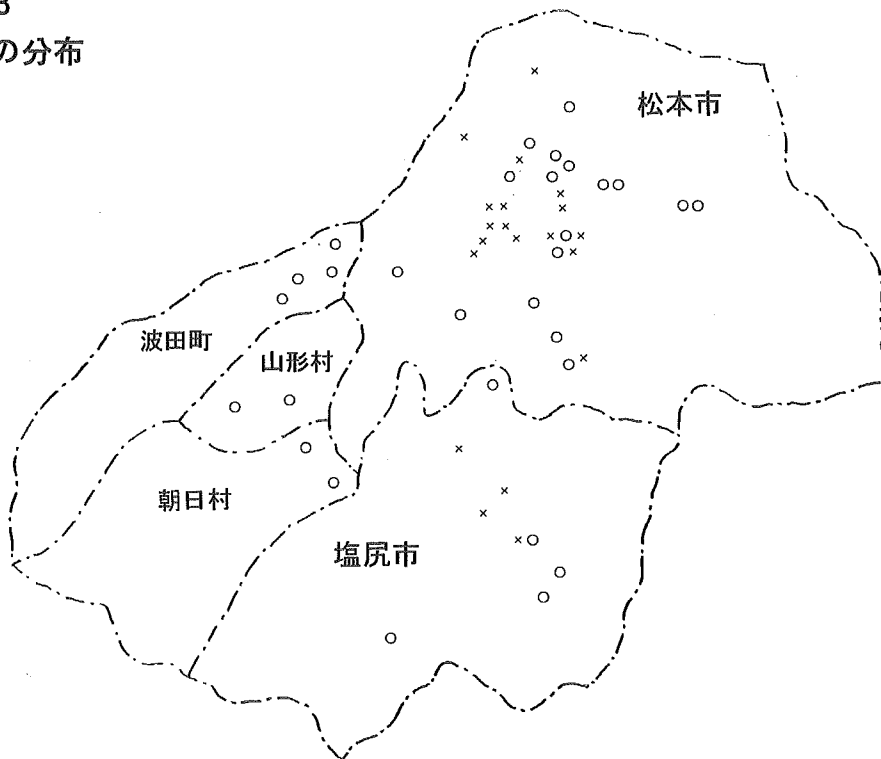
ki は、「言う」が23人(46%)である。その内 ki'ja を言うとする人は、34広丘吉田(男)・37大門(女)・40柿沢(女)の3人のみで、少ない。いずれも塩尻市である。kuri は、「言う」が30人(60%)である。ki・kuri を地図上に示すと、地図2・3のごとくである。「言う」を○、「言わない」を×で示す。(以下同じ)

地図3から、kuri について、松本市の中心部と塩尻市の中心部で、「言わない」が多いことが見て取れる。

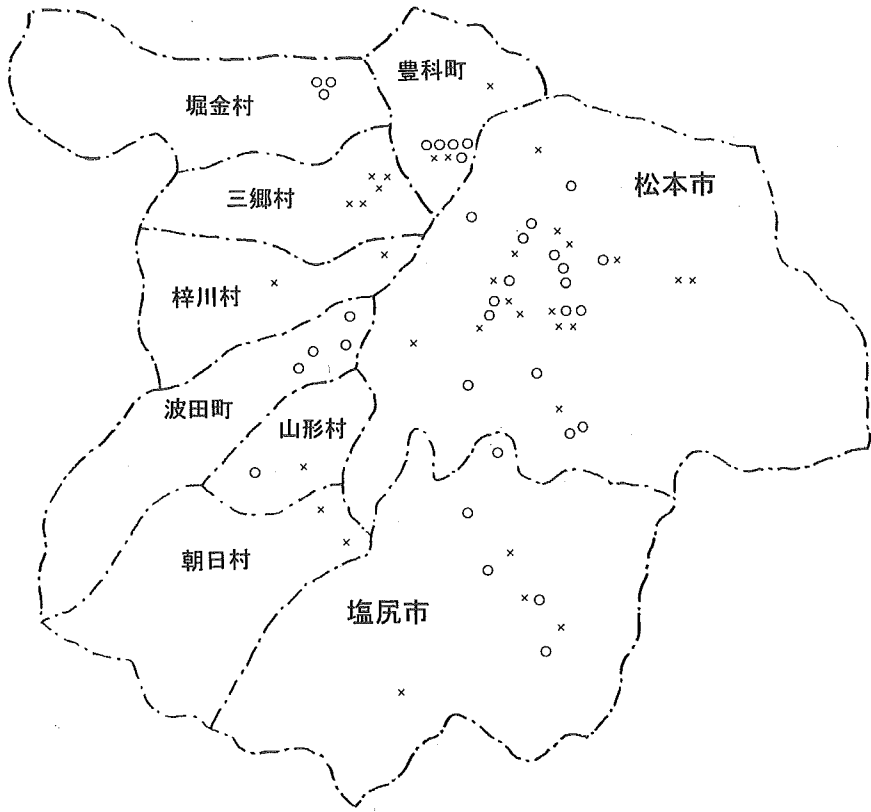
地図 2
ki の分布



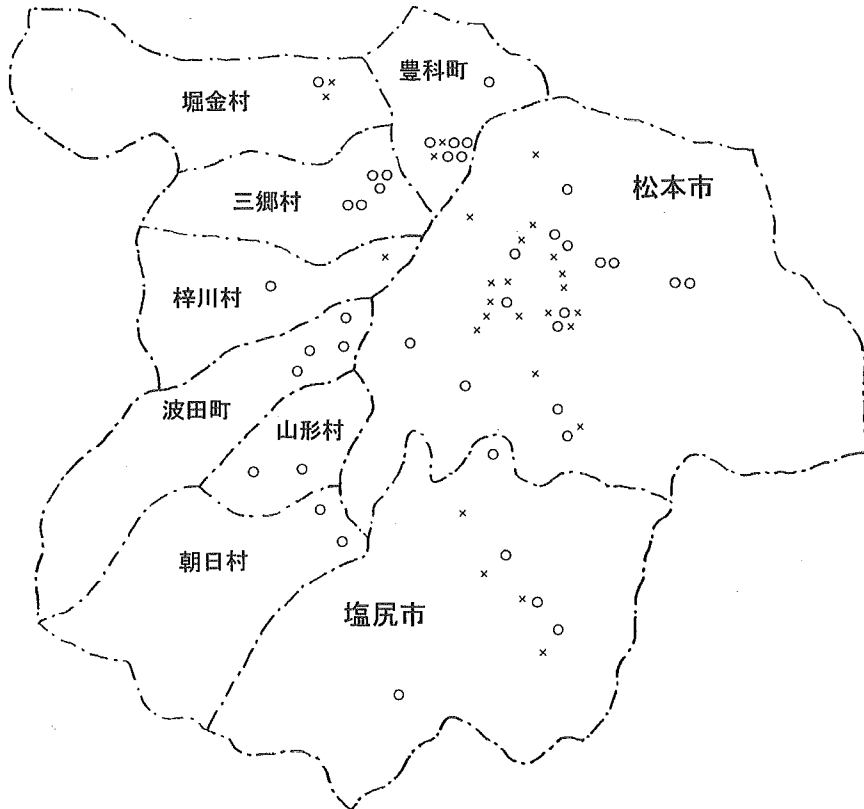
地図 3
kuri の分布



地図4
siri の分布



地図5
suri の分布



地図2、ki については、kuri ほどはっきりした結果となっていないが、松本市の中心部では「言う」が比較的多く、周辺部では「言わない」が多いこと、そして松本市以外へ行くとまた「言う」が比較的多い、ということが言える。

4.6.4 siri・suri

si は「言う」が16人（32%）であり、少ない。si を言う人は、8沢村(女)を除いて全員が、ki を言うとしている。si'ja を言うのは34・40の2人のみである。

siri と suri の「言う」は、それぞれ27人（54%）、28人（56%）である。

siri と suri の分布を考えるために、南安曇郡の豊科町・梓川村・三郷村・堀金村の調査結果をあわせて使う。同町村での結果は、全員が「言う」であった。以下に、町村ごとに人数を示し、個人個人に町村ごとの番号を付け、町名・性別を示し、その後に siri・suri の順で「言う」「言わない」を記す。

- <豊科町> 8人 i 田沢(男)×○ ii 高家(男)○○ iii 高家(女)○× iv 高家(女)○○
 v 高家(女)○○ vi 高家(女)×× vii 高家(女)×○ viii 高家(女)○○
- <梓川村> 2人 i 倭(女)×× ii 梓(女)×○
- <三郷村> 5人 i 明盛(男)×○ ii 明盛(女)×○ iii 明盛(女)×○ iv 温(男)×○
 v 温(男)×○
- <堀金村> 3人 i 烏川(男)○○ ii 烏川(男)○× iii 烏川(男)○×

これらと表4の結果を地図上に示すと、地図4・5のごとくである。豊科町・梓川村・三郷村・堀金村の中の同じ町で複数あるものは、左横書きの順で並べる。

地図4、siri について。「言う」は、堀金村を除けば、幹線道路に沿って南北と西方に延びている感がある。ただし全体的に「言う」「言わない」が混在している傾向である。

地図5、suri について。塩尻市では「言う」「言わない」が半々である。松本市中心部とその近くには「言わない」が多数あり、その周りの松本市周辺部と他町村には「言う」が多数ある。「言わない」を「言う」が取り囲んでいることが、図に現れている。

以上のように地図において見る事ができた。これらがどのようにしてこういう分布となったかまでを考察することは、なかなか容易でない。結果の報告に留どめる。

5. 終わりに

以上、この地の若年層の動詞の活用を述べ、松本市とその周辺での、優しい命令形とヤによる勧誘形の使用状況を見た。多くの人が使っていることを示し、また個人差があることも述べた。語による違いがあることも見た。相当はっきりした結果が出たものもあった。これらの方言形は、この地の多くの人々が、現在使って生活しているわけである。

資料を多数集めることができたのは幸いである。そのために本稿をまとめることができた。調査に協力してくれた人々に、感謝の意を表す。

注

- ・ここに挙げるのと類似の命令形に関して、群馬県におけるものは有名である。杉村(1984)は次のように述べている。「女性や子供の用いる次のような形がある。子音動詞では中止形の語末の母音を伸ばしたカキー<書きなさい>・トリー<取りなさい>、母音・サ変動詞ではウケリー<受けなさい>・シリール<しなさい>とrで終わる子音動詞のような形になり、命令をあらわす。カ変動詞には接続せず、オイデー<おいでなさい>という代用形にとってかわる」
- ・国立国語研究所(1991)には命令形の項がある。「起きろ」について<okiri>を(本稿とは表記のしかたが違う)、東京都利島村の語形として挙げ、それに類似の形を他の地点の語形として挙げている。他の動詞についても同様に挙げている。同書より、東京都利島村の他の動詞の命令形を挙げると次のとおりである。見ろー<miri>、開けろー<akiri>、任せろー<makaseri>、蹴れー<keri>、来いー<koo>、しろー<siri>。なお長野県については、同書にはそうした語形は載せられていない。

参考文献

- 馬瀬 良雄 1992 『長野県史 方言編』
国立国語研究所 1991 『方言文法全国地図』 2
杉村 孝夫 1984 「6 群馬県の方言」『講座方言学 5 関東地方の方言』
飯豊 毅一他 1983 『講座方言学 6 中部地方の方言』
馬瀬 良雄 1971 『信州の方言』

